今この時代、新しい文化に目を向けた「まちおこし」
～コスプレイベントが秘める可能性～

三郷市立北公民館　熊沢（くまざわ）　優愛（ゆあ）

1　はじめに

昨今、人口減少や若者離れ等の言葉が示すように、人口の偏りが多くみられる。この現状が続いてしまっては、一番割を食うのは地方都市に住む人々である。それぞれのまちには良い点が沢山あるだろう。自然が豊かである、交通の便が良い、安全性が高い等々、自慢できる特色があるとも思う。

だが、利便性も安全性もその他の「良いまち」になり得る要素も、そもそもそこで生活をする人がいなければ無用の長物だ。このままでは各々の持つまちの良い点が活かされないまま、廃れていってしまう危険性すらある。そこで私が提案するのが、まちおこしによる地域の活性化だ。

まちおこし、と聞いて思い浮かべるのはどのようなものか。各地域の名所か、歴史ある建造物、名物の食べ物、それとも祭り等の行事だろうか。そのどれもが今までにそれぞれのまちを様々な形で豊かにしてきた実績があるだろう。では今回提案するまちおこしのためにはどのようなことを行うか？現在の少子高齢化や国際化を考慮し、その方法はこれから減りゆく若者を中心とした幅広い年代に向けたもの、かつ海外からも観光客が訪れるようなものが望ましい。

ここで挙げたいのが世界的に有名な日本文化である、アニメ・漫画文化だ。日本国内はもちろんのこと、フランスで行われるJapan Expo（日本文化総合博覧会。アニメや漫画も数多く取り上げられる）、アメリカで行われるANIME EXPO、台湾で行われる漫画博覧会、ブラジルで行われるAnime Friends等の多数のイベントからもわかるようにアニメ・漫画は諸外国からも注目されている。更には対象となる年代も幅広い。幼児向けのものから始まり、十代～三十代ほどの若い世代が大多数を占めるだろうが、有名なもので言えば『ガンダム』や『ドラゴンボール』『ベルサイユのばら』といった作品のファンである四十～五十代以上の方も多いのではないだろうか。つまり、この文化はそれだけ多くの人が親しみのあるものだということになる。諸外国からの人気、若者を中心とした幅広い対象。まちおこしにうってつけだ。また、近頃では選挙の啓発や行政の事業の広報等にも既存・オリジナルを問わずアニメや漫画、イラストが利用されている。例としては文部科学省のいじめ・自殺防止や障害者理解を求める施策の一環として行われたアニメ映画「聲の形」とのタイアップが挙げられる。

文部科学省による啓発特設ページ[1]

アニメ・漫画を介することにより、同じ「行政によるまちおこし政策」でもいわゆる「役所のお堅い印象」を和らげることができ、より多くの人に興味と親しみをもってもらえるだろう。そこで、本稿で

は幼児から年配の方、国内外を問わず人気の高いアニメ・漫画文化によるまちおこし、特に行政が共催・後援して行うコスプレイベントによるまちおこしについて提案する。

2　まちおこし、その手段とは

まちおこしの理想的な結果としては産業振興、人口増加などがあるが、アニメや漫画で人口増加、というのも現実的ではない。となれば、人が多く訪れ、自治体の名を広く知ってもらえるような観光によって集客数の増加を図り、賑わいのあるまちを目指すのも一つの手だろう。

アニメ・漫画による観光といえば、ファンが作品ゆかりの土地を回る、いわゆる「聖地巡礼」があるが、それにはその地域が何らかの作品に関わっていることが前提である。では作品とのコラボはどうか。それも作品に関係のある地域が選ばれやすいことは否めない。それも双方共にある程度特定された方（対象となる作品や作者のファン）が主な対象となる。特定の県や市ではなく「地域」に必要なこととしてまちおこしを挙げるのなら、より広範囲の方の興味を引き、特定の条件や縛りがなるべく少ない方法が好ましいのではないだろうか。

それでは、アニメ・漫画文化の中でも近年注目されるようになった『コスプレ』はどうだろう。

コスプレ、という言葉を特に聞くようになったのは、ここ数年のハロウィンだろうか。10月の終わりに渋谷や新宿に魔女やゾンビ、果てはハロウィンには関係のない仮装で祭りのようにはしゃぐ人々がよくテレビに映されるようになった。コスプレといえばこちらのイメージが強い方もいるかもしれない。

だが今回挙げるコスプレとは漫画やアニメ、ゲーム等のキャラクターに扮することである。以前から各作品のファンの間で行われていたが、昨今のインターネットやSNSの急激な発展により、一気に注目されるようになった。コスプレを行う人はコスプレイヤー（略してレイヤー）と呼ばれ、最近ではコスプレ専門雑誌の発売やテレビ特集が組まれるなど、漫画やアニメに興味のない人の目にも留まりやすく、注目されつつある。国内最大のコスプレ専用SNSの登録数は2014年の時点で延べ40万人を超えている[2]。また、名古屋で開催されている『世界コスプレサミット（通称コスサミ）』では撮影やステージイベント、パレード等の他にも世界規模のコスプレチャンピオンシップが行われている。このチャンピオンシップへの出場をかけて各国のレイヤーが自国で代表選考会に挑む大規模なイベントとなっており、2017年には世界34か国からレイヤーが参加した[3]。

3　なぜコスプレイベントはまちおこしになりうるのか

では、何故コスプレイベントが「特定の条件や縛りが少ない」まちおこしになりうるのか。それは、コスプレイベントを開催するのに特別なものが必要ないからである。『ある程度の交通機関』と『着替え、準備用の施設』『普通のまち』、そして『理解』。これだけで基盤は十分だ。

まず『ある程度の交通機関』。これは言うまでもないだろう。多くの人に集まってもらうには、交通機関が重要になる。ではある程度とはどの程度か？イベントを行う自治体の最寄り駅から会場へ向かう際に、駅から歩いてすぐのところにある、というのがもっとも望ましい条件だろう。だがそうも都合のいい自治体ばかりではない。駅の近くに適した開催場所がないことも多いだろう。その場合は、バスで移動できる範囲に開催可能な場所があれば、十分ではないだろうか。しかし、例えばバスが１時間に２本しか来ないようでは参加者にとって非常に不便である。また、参加者が数百人にも上るような大規模なイベントを行うとしたら、普段バスを利用している近隣住民が多大な迷惑を被ることになるかもしれない。そのような自治体ではシャトルバスの運行等が必要となるだろう。一般のバス利用客や住民に迷惑をかけず、参加者が不便を感じずに参加できる程

度の交通機関。これが私の想定する『ある程度の交通機関』である。

次に『着替え、準備用の施設』。参加者は、地元からコスプレをしたまま会場に来るわけにはいかない。また、荷物が多くキャリーバッグなどで参加する方もいるため、荷物の預かりを行う可能性もある。そのため、こうした施設が必要となるが、これも体育館や公民館の利用や、民間施設を借りるなどすれば大抵の地域では既存の建物で賄えるのではないだろうか。

続いて『普通のまち』。これは読んで字の如く、公園やプール、ステージ、神社、工場やチェーンのレストラン、そのような普通のまちでいい。普段コスプレの撮影を行う方は室内や人目のつかない場所を選ぶことが多く、セットではない日常的な風景のもとで撮影する機会は少ない。だが、イベントとして街中での撮影を後押しすることにより、日常風景のもとでの撮影がしやすくなる。街中を会場にするのが難しくとも、学校や神社など「撮影場所」になり得る場所さえあればいいのだ。そして春は桜、夏は水場、秋は紅葉、冬は雪。これらはあくまで一例だが、自治体により春夏秋冬目玉となり得るものがあれば、そこを押し出せる。ある程度参加者の増減はあれども四季を問わないのもコスプレイベントの利点である。もちろんイベント内でパフォーマンスステージや特殊な企画を行うことも楽しめるとは思うが、撮影という点に関しては普通のまちであれば十分に開催地としての条件を満たすと考える。

そして最後に、『理解』。恐らくこれが何よりも大切なことではないかと考えている。何かしらのイベントを行おうとしたとき、その影響を一番受けるのは地元住民である。人が来ればそれでいい、というわけではない。地元に沢山の人が来るのをよく思わない方もいるだろうし、治安やマナーを心配して反対する方もいるだろう。また、コスプレが広まってきている、と言ったところでまだまだもの珍しいのも事実だ。コスプレ特有の問題点などもある。

参加者側の問題を挙げると、例えば街中での極端な露出や、周囲への危険を伴う小道具の利用等がよく耳にする問題行動だ。これらは街中のイベントに限ったことではないが、一般の方の目にも否応なしに入り、場合によっては不快感や恐怖心等を与えかねない。

参加者以外の問題としては、例えば通行人が本人に無許可でコスプレイヤーの写真を撮り、更にはネットにアップするということがある。これに関しては街中で撮影を行う以上、完全に防ぐことは難しいだろうが、見過ごしてよいものではなく、対策は必要だ。しかし、このように少々特殊な問題もあるがために、スタッフや運営の準備・想定が足らず参加者や住民からの批判的な意見に繋がってしまうこともある。

このような問題に主催側が直面していることを知り、その上でこれらの問題を共催・後援者として行政はどう解決していくか。そして地元の人々のイベントに対する理解をどのように得ていくか。これこそ参加者が楽しかったね、また来たいねと帰路につけるような、地元の人々が楽しんで「うちではこんな行事があるんだ」と自慢できるようなイベントにするための鍵である。

長くなったが、『ある程度の交通機関』『着替え、準備用の施設』『普通のまち』『理解』。以上が必要となる大きな４点だ。見てのとおり、特別なものはない。

そしてコスプレが縛りの少ないまちおこしになるもう一つの理由、それは作品のゆかりの地巡りやコラボよりも多くの人が対象となりうる事である。「コスプレ」という行為そのものが好きであればそれだけで参加理由になる。その楽しみ方は様々であり、コスプレイヤーとしての参加者はもちろん、それを撮るのが好きなカメラマンや、コスプレイヤーを見るのが好き、という人もいる。様々な作品のファンが様々な形でコスプレを楽しむために訪れるのだ。

4 『コスプレ』でまちおこし、その現実味

さて、ここまでコスプレイベントによるまちおこしについて書いてきた。しかしこれを読んでいる方の中には、そうは言っても本当にそんなものでまちおこしなどできるのか、と思われる方がいるかもしれない。だが、実際に行政がコスプレイベントを共催・後援することによって、そのまちに多くの人が訪れている例はある。

その例に一番適しているのは、大阪で行われている『日本橋ストリートフェスタ（通称ストフェス）』だろう。今年で開催13年目となるこのイベントは毎年大阪市日本橋の電器街「でんでんタウン」で行われており、浪速区長を委員長とした実行委員会によって運営されている。地元の商店街を中心に始まったこのストフェス、2017年にはなんと25万人を動員し、先述のコスサミなどに次ぐ日本有数のコスプレイベントとなっている 。

日本橋ストリートフェスタの様子[5]

ストフェスコスプレ参加者

まだ課題は多いとのことではあるが、行政が関わって行うコスプレイベントによる集客という点では成功の代表例とも言えるだろう。大型のイベントのため、遠方から予定を合わせて大人数のグループで参加する方も多い。そのため宿泊用のホテルや開催地域周辺での買い物等、多くの経済的な効果を見込むことができる。また、コスプレイヤー、カメラマン、一般参加者が一緒になって楽しめるイベントでもあるため、毎年開催後にはストフェスの名称を掲げてインターネットやSNS上に参加者のレポートやコスプレイヤーの写真が多くアップされる。こうしたレポートや写真を誰もが気軽に見ることのできる現代では、イベントのことを全く知らなかった人がそのようなレポートや写真を見てそのコスプレイベント、ひいてはそのまちの名前を知ることにも繋がりやすくなる。

ほかにも、ストフェスほどの規模でなくとも自治体がコスプレイベントのバックアップに携わり成功した例がある。それが北海道苫小牧市の『苫小牧コスプレフェスタ』だ 。

これは既存のイベントに苫小牧市が後援（現在は共催）となって行われているイベントで「苫小牧市が全力でコスプレイヤーを応援！」のフレーズを掲げており、市内十数か所を撮影ロケーションとして開放したり、パフォーマンスステージや乗馬撮影を始めとする様々な体験・撮影ができるイベントである。

苫小牧コスプレフェスタの様子[6]

開会式での宣誓[6]

2014年から始まったこのイベントは、２日間の参加者延べ7,000人から始まり、第４回となる2016年には延べ14,000人が参加するほど大きくなった。アニソンパーティーや怪談ライブ、有名漫画の展示リバイバルなど、コスプレに興味がなくとも楽しめるような企画も多く、ストフェスよりも規模は小さいながら、コスプレイベントを主体としてアニメ・漫画が好きな参加者が様々な角度から楽しめるイベントとなっている。

ここまで多くのロケーション開放や様々なコンテンツを盛り込んでの開催は、市の共催や後援がなくては難しいのではないだろうか。「自治体が共催・後援となって行う現実的なコスプレイベント」としての理想はこのような形だと感じている。

5　コスプレイベントによるまちおこしの成功のためには

ここに挙げた２例以外にも、成功したコスプレイベントはいくつかある。埼玉県内の例では、企業で行っているイベントではあるが、さいたまスーパーアリーナを利用しているものもある[7]。では、このような成功例に続くためにはどうすればいいのか。コスプレイベントを成功させるために何か特別なことが必要なのか。そんなことはないと、私は考えている。当たり前のことを行えばよいのだ。

まず「参加者本位のイベントにする」ことである。確かに今回提唱しているコスプレイベントの第一の目標は地域の活性化にある。しかしあくまでも参加者が楽しんで、次に繋げてこそのまちおこしであるということを忘れてはいけない。人が継続して訪れなければまちおこしにはなり得ない。また昨今のインターネット・SNSの普及により、物事は良しにつけ悪しきにつけすぐに広まる。問題が起こった際に、些細なことだと軽く見ていればすぐに悪評として広まってしまうのだ。

次に「知って理解する」こと、つまりは事前調査である。これはイベントを共催する際に特に必要なことである。理解というものは馴染みのないものを扱う際、とても大切なことだ。見当のつかないことや予想外のことが多いからである。たとえば更衣室に関することとしては、着替え・メイクにはどれくらいの時間がかかるものなのか？小道具に関しては、アニメ、漫画の世界では規格外の武器や道具を持っているキャラクターも多いため、規定をしっかりと行わなくては、周囲の参加者の迷惑になってしまうかもしれない。参加者にイベントの問題点を指摘されたときは、運営側の対応がイベントそのものの印象・評価に大きく影響する。理解不足で対応が出来なければ、イベントそのものをいくら良いものにしようと、悪印象が染み付いてしまうかもしれない。その分野に関する知識を得て、その問題が起きている理由をつかめなければ、動けないのだ。幸い、基本的な規約、ルールは企業が行っているコスプレイベントを参考にできる部分も多い。下調べを行い、しっかりと事前準備をしておくことが大切なこととなる。

例えば、イベントの実施に当たって必ず押さえておかなければならないことの一つに、参加者による問題行動がある。イベントでは禁止行為（更衣室以外での更衣、禁止物の利用、サイズ規定外の小道具の持ち込みなど）や撮影による通行妨害、人目を憚らない言動などといった問題行動が見受けられることがある。これらの行為が横行すれば、次のイベント開催が危ぶまれるだけでなく、まちおこしの可能

性を秘めたコスプレそのものが非難の的にされてしまうことにも繋がってしまう。

しかし、これはほんの一部の参加者によるもので、大多数の参加者はモラルを守り、むしろそのようなルール違反に対して目を光らせている。自分たちの好きなイベント・趣味を守ろうという意識から、違反者の報告など違反行為の取り締まりへの協力を積極的に行う参加者も多い。

こうしたことから、イベント運営側が迷惑行為の報告窓口や対策室の設置、会場内への十分なスタッフ配置など、参加者が問題行動の監視・通報をしやすい環境を整えた上で、問題行動に対して厳格な対応を行っていけば、きっと参加者がリピートしたくなるような、まちおこしにつながるようなイベントにすることができると考える。現に「運営側に報告をしたらすぐに対応してくれた／報告をしたのに対応してもらえなかった」という参加者の声はよく聞く。

こうした実態をよく把握しておくことが、イベントの成功につながる。

これも、「当たり前のことを行う」だけで、難しいことはない。繰り返すが、コスプレとはまだもの珍しいものという認識が強いだろう。行政で共催や後援をしているイベントともなれば尚更例は少ない。だが、周到な事前準備やその分野の実態を調べるのは、事業を行う際は当然のことである。まちおこしの手法として馴染みのないものだからといって、コスプレイベントだけが敬遠される謂れはない。しっかりと必要な点さえ押さえれば、どのような自治体でも実践できるものなのだ。

では、ここまで難しくない、どこでもできると述べてきたコスプレイベントが、何故全国の自治体であまり行われていないのか？それは、アニメ・漫画というものへの印象があるのではないかと考える。例えば、私が「現在コスプレイベントについての記事を書いている」と言うと「楽しそうだ」「それって仕事なの」と言われることが多い。これに関しては私の周囲の話でしかないため一概には言えないが、アニメ・漫画に関わるものは趣味や遊びである、というイメージが未だに強いのではないだろうか。そのため、行政で行うという案が出づらい、もしくは案が出たとしてもそれを通し、実行に移すまでに至らない。そもそも事業立案に携わる職員が「コスプレイベント」というもの自体を知らない可能性も多分にある。そのような自治体ならば尚更であるが、もしこの論文が目に止まったならば、是非ともコスプレイベントによるまちおこしについて御一考いただきたい。

6　むすび

始めに述べたように、インターネットやSNSの普及をきっかけにコスプレ人口が増えている。すると必然的にコスプレが好きな人同士が出会うのはインターネット上であることも増えていく。しかし、やはりネット上で知り合った相手がたまたま近くに住んでいる、などということは多くはない。同じ趣味を一緒に楽しもうにも、それが難しい距離であることも多い。そんな人たちが会うきっかけになるのが、コスプレイベントである。もちろん個人で企画を立て、全国から集まった人たちと撮影やイベントを行うこともあるが、やはり自分が主催者として予定を立てるより、気軽なのはどこかの団体が主催となって行っているイベントに参加することだろう。

一人で参加して楽しむ方はもちろん、日本の遠く離れた地で暮らす人たちが「〇〇のイベントで会おうね」と予定を合わせて、その日イベントに参加するために、同じ趣味を持つ者たちで楽しむために集まることになる。そして、良し悪し問わずにイベントを評価するのは、殆どが参加者となる。そしてその批評の場は、やはりネット上である。日本だけではなく、世界にも手軽に発信できる時代だ。コスプレイベントが成功し、多くの人に「ここのイベントは楽しかったから、今度はもっとたくさんの人と楽しみたい！」と思ってもらえたら。そしてそんな人

たちの繋がりで日本各地から大勢の参加者が訪れるようなものになれば。世界にも発信され、日本の外からも注目されるようなイベントになれば。自分たちの県が、市が、どこに行っても「ああ、あの有名なところだよね」などと言われる日がくるかもしれない。

このように、イベントが注目されれば、イベントだけでなく自治体の名も広まる。人の足も向くようになる。訪れる人が増えればまちは豊かになり、さらに発展していく。自治体の名が広まることにより、まちの誇れる点も今まで以上にアピールしやすくなる。コスプレイベントによるまちの振興、まちおこしの成功である。

甚だ以て馬鹿らしい空想に聞こえるだろうか。しかし、有りえないとも言い切れないはずだ。未だコスプレイベントは多くはない。今ならば行政が共催・後援となるイベントは注目されやすいだろう。その内容が参加者にとってよいものであれば、次へ繋がる。既存の施設と既存のまちを開放し、まちおこしとなる新しいことを行う。デメリットは少なく、成功すれば全国から人が集まるイベントになるかもしれない。

ここまで長らく本稿を読んでくださった方のまちでも出来うるものではないだろうか。少しでも興味をお持ちいただけたら、是非これからの事業検討の視野に入れて頂きたく思う。

脚注

1　文部科学省特設ページより抜粋　http://www.mext.go.jp/koenokatachi/
2　コスプレイヤーズアーカイブ　公式通知
http://www.worldcosplaysummit.jp/press/files/WCS2015_PR150401_%E7%B5%8C%E5%96%B6%E7%B5%B1%E5%90%88.pdf
3　世界コスプレサミット　公式HP　http://www.worldcosplaysummit.jp/
4　日本橋ストリートフェスタ運営者より確認
5　日本橋ストリートフェスタ　公式HP　http://nippombashi.jp/festa/2017/
6　とまこまいコスプレフェスタ　公式HP　http://tomakomai-cos-fes.com/
7　acosta!　公式HP　http://acosta.jp/